|  |
| --- |
| **社会福祉法人秋篠茜会** |
| **２０１８年度事業報告書** |

[Ⅰ．法人の概況 5](#_Toc9327902)

[Ⅱ．評議員の状況（２０１９年４月１日現在） 6](#_Toc9327903)

[Ⅲ．理事の状況（２０１９年４月１日現在） 6](#_Toc9327904)

[Ⅳ．監事の状況（２０１９年４月１日現在） 6](#_Toc9327905)

[Ⅴ．評議員選任・解任委員会の状況（２０１９年４月１日現在） 6](#_Toc9327906)

[Ⅵ．役員（理事（職員給与支払額含む）および監事）並びに評議員等の報酬総額 6](#_Toc9327907)

[Ⅶ．運営組織（組織図）（２０１９年４月１日現在） 7](#_Toc9327908)

[Ⅷ．職員の状況 8](#_Toc9327909)

[１．職員の配置状況（２０１９年４月１日現在） 8](#_Toc9327910)

[２．職員採用等の状況 8](#_Toc9327911)

[Ⅸ．許認可に関する事項（定款変更および指定変更） 9](#_Toc9327912)

[Ⅹ．業務の適正を確保するための体制等の整備と運用状況 9](#_Toc9327913)

[１．情報保存管理体制に関する事項 9](#_Toc9327914)

[２．効率性確保体制に関する事項 9](#_Toc9327915)

[３．法令遵守体制に関する事項 9](#_Toc9327916)

[４．育成・教育体制に関する事項 10](#_Toc9327917)

[Ⅺ．２０１８年度事業の状況 10](#_Toc9327918)

[１．事業環境と情勢認識 10](#_Toc9327919)

[２．事業の経過と概況 11](#_Toc9327920)

[（1）高齢者事業分野（障害福祉事業含む） 11](#_Toc9327921)

[（2）保育事業分野 12](#_Toc9327922)

[３．事業活動収支の状況 12](#_Toc9327923)

[４．設備投資および支払源泉の状況 14](#_Toc9327924)

[（1）特別養護老人ホームこがねの里拠点 14](#_Toc9327925)

[（2）介護予防サイクルハウス・あこだ 14](#_Toc9327926)

[（3）小規模多機能ホームあかりの家 14](#_Toc9327927)

[（4）あかね保育園拠点 14](#_Toc9327928)

[５．資金収支および財務の状況 14](#_Toc9327929)

[６．評議員会、理事会に関する事項 16](#_Toc9327930)

[７．評議員選任・解任委員会に関する事項 18](#_Toc9327931)

[８．２０１７年会計年度分の監事監査の状況 18](#_Toc9327932)

[９．会計に関する専門家の活用状況 18](#_Toc9327933)

[（1）２０１７年会計年度分決算調査 18](#_Toc9327934)

[（2）２０１８年度会計分決算残高点検 18](#_Toc9327935)

[（3）２０１８年度会計分上半期決算調査 18](#_Toc9327936)

[10．所轄庁からの報告徴収・検査等への対応状況 18](#_Toc9327937)

[11．業務の適正、サービスの確保のための教育・研修実施状況 19](#_Toc9327938)

[12．苦情・相談内容、件数 20](#_Toc9327939)

[13．第三者評価、運営推進会議等の開催状況 20](#_Toc9327940)

[（1）運営推進会議開催状況 20](#_Toc9327941)

[14．社会福祉充実残額および社会福祉充実計画の策定状況 21](#_Toc9327942)

[15．社会福祉事業の実施状況 22](#_Toc9327943)

[（1）特別養護老人ホーム 22](#_Toc9327944)

[（2）こがねの里ショートステイ 23](#_Toc9327945)

[（3）こがねの里デイサービスセンター 23](#_Toc9327946)

[（4）こがねの里ホームヘルプセンター 24](#_Toc9327947)

[（5）介護予防サイクルハウス・あこだ 24](#_Toc9327948)

[（6）小規模多機能ホームあかりの家 24](#_Toc9327949)

[（7）あかね保育園（保育所） 25](#_Toc9327950)

[（8）奈良市地域子育て支援センターＰｅａｃｅ（地域子育て支援拠点事業） 27](#_Toc9327951)

[16．公益事業の実施状況 29](#_Toc9327952)

[（1）居宅介護支援事業（ケアプラン作成） 29](#_Toc9327953)

[（2）企業委託型保育事業 29](#_Toc9327954)

[（3）高齢者生活共同運営住宅事業 30](#_Toc9327955)

[17．地域における公益的な取組・活動等の状況 30](#_Toc9327956)

[（1）社会福祉法人減免、低所得者への法人独自減免の実施状況 30](#_Toc9327957)

[（2）ボランティア組織の活動状況 31](#_Toc9327958)

[（3）その他活動 31](#_Toc9327959)

[事業報告付属明細書 33](#_Toc9327960)

[Ⅰ．評議員および役員兼職状況（２０１９年４月１日現在） 34](#_Toc9327961)

[事業報告資料 35](#_Toc9327962)

[Ⅰ．事業別予算・実績比較表 36](#_Toc9327963)

[Ⅱ．２０１８年度利用者動向 37](#_Toc9327964)

[１．利用者動向一覧表 37](#_Toc9327965)

[２．特別養護老人ホーム、ショートステイ利用者動向 38](#_Toc9327966)

[４．訪問介護事業（ホームヘルプ）利用者動向 40](#_Toc9327967)

[５．居宅介護支援事業利用者動向 41](#_Toc9327968)

[６．小規模多機能型居宅介護、高齢者生活共同運営住宅利用者動向 42](#_Toc9327969)

[７．介護サービス別収益単価推移 43](#_Toc9327970)

[Ⅳ．機能別委員会活動、研修実施状況 44](#_Toc9327971)

[１．機能別委員会の活動 44](#_Toc9327972)

[（1）こがねの里医療的ケアの安全対策委員会 44](#_Toc9327973)

[（2）こがねの里安全管理委員会 44](#_Toc9327974)

[（3）こがねの里身体拘束廃止委員会 44](#_Toc9327975)

[（4）こがねの里労働安全衛生委員会 45](#_Toc9327976)

[２．２０１８年度研修実施・参加報告（こがねの里） 45](#_Toc9327977)

[３．あかね保育園健康安全委員会 46](#_Toc9327978)

[４．あかね保育園給食会議 47](#_Toc9327979)

[５．社会保障を充実させる取り組み（社保委員会活動） 47](#_Toc9327980)

[Ⅵ．協力組織との関係強化および共同組織方針づくり 48](#_Toc9327981)

[１．こがねの里入居者・家族の会との連携 48](#_Toc9327982)

[２．あかね保育園保護者会 48](#_Toc9327983)

[３．特別養護老人ホームこがねの里を良くする会 48](#_Toc9327984)

[４．あかね保育園運営協議会 49](#_Toc9327985)

[５．高齢者生活共同運営住宅建設運営協力会 49](#_Toc9327986)

# Ⅰ．法人の概況

|  |  |
| --- | --- |
| 法人の名称 | 社会福祉法人秋篠茜会 |
| 設立年月日 | １９９９年　９月２８日 |
| 許可年月日 | １９９９年　９月２２日　高奈　第３４３号 |
| 主たる事務所 | 奈良市西大寺赤田町一丁目７番１－２号 |
| 所管官庁 | 奈良市総務部法務ガバナンス課、奈良市福祉部（福祉政策課、保護第一・第二課、介護保険課、長寿福祉課）  奈良市子ども未来部保育総務課、保育所・幼稚園課、子育て育成課、子育て相談課、奈良市保健所 |
| 定款の目的 | この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、秋篠茜会の理念のもとに次の社会福祉事業を行う。 |
| 定款に定める事業内容 | 社会福祉事業  第一種社会福祉事業  （イ）特別養護老人ホームこがねの里の設置経営  第二種社会福祉事業  （イ）老人デイサービスセンター「こがねの里デイサービスセンター」の設置経営  （ロ）老人短期入所事業（こがねの里）  （ハ）老人居宅介護等事業  （ニ）あかね保育園の設置経営  （ホ）障害福祉サービス事業  （ヘ）老人デイサービスセンター「介護予防サイクルハウス・あこだ」の設置経営  （ト）小規模多機能型居宅介護「小規模多機能ホーム　あかりの家」の設置経営  （チ）地域子育て支援拠点事業「奈良市地域子育て支援センター「Peace」」の受託経営  公益事業  （1）居宅介護支援事業  （2）企業委託型保育サービス事業  （3）高齢者生活共同運営住宅事業 |

# Ⅱ．評議員の状況（２０１９年４月１日現在）

|  |  |
| --- | --- |
| 評議員の定員 | ７名以上１７名以下 |
| 評議員の現員 | １５名 |

# Ⅲ．理事の状況（２０１９年４月１日現在）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 理事の定員 | ６名以上１４名以内 | | | | | |
|  | 常勤 | | 非常勤 | | 合計 | |
| 理事の現員 | ４ | 人 | ９ | 人 | １３ | 人 |

# Ⅳ．監事の状況（２０１９年４月１日現在）

|  |  |
| --- | --- |
| 監事の定員 | ２名 |
| 監事の現員 | ２名 |

# Ⅴ．評議員選任・解任委員会の状況（２０１９年４月１日現在）

|  |  |
| --- | --- |
| 委員の定数 | ３名 |
| 委員の現員 | ３名（外部委員１名、監事１名、事務局員１名） |

# Ⅵ．役員（理事（職員給与支払額含む）および監事）並びに評議員等の報酬総額

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 支給人数 | 報酬等の総額 | 適　　用 |
| 評議員 | １０人 | ８１千円 |  |
| 理事 | １２人 | ３０，９８９千円 | 但し、職員給与支払額含む |
| 監事 | ２人 | ９０千円 |  |
| 計 | ２４人 | ３１，１６１千円 |  |

※報酬等の総額は端数処理により各区分の合計とは一致しない。

# Ⅶ．運営組織（組織図）（２０１９年４月１日現在）



# Ⅷ．職員の状況

## １．職員の配置状況（２０１９年４月１日現在）

| 拠点・サービス区分 | | 正規職員 | 非正規職員 | 常勤換算数 | 平均年齢 | 平均勤続年 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| こがねの里 | 法人本部 | ２人  (±0) | ０人  (±0) | 2.0名  (±0) | 59.3歳  - | 13.2年  - |
| 特養・ショートステイ | ４１人  (▲2) | ３５人  (＋4) | 65.6名  (＋0.3) | 46.5歳  - | 6.9年  - |
| デイサービス | ４人  (▲1) | ７人  (＋2) | 8.9名  (▲0.2) | 53.9歳  - | 6.6年  - |
| ホームヘルプ | ０人  (±0) | ０人  (▲5) | 0.0名  (▲4.1) | -  - | -  - |
| あこだ | デイサービス | ４人  (±0) | １５人  (＋2) | 12.1名  (＋0.9) | 57.9歳  - | 5.0年  - |
| 居宅介護支援 | ３人  （＋1） | １人  （±0） | 3.8名  (＋0.9) | 50.6歳  - | 11.1年  - |
| あやめの里 | ０人  （±0） | ２人  （＋2） | 0.2名  （＋0.2名） | 53.5歳  - | 0年  - |
| あかりの家 | | ２人  (±0) | １５人  (▲1) | 9.2名  （▲0.9) | 59.0歳  - | 2.4年  - |
| あかね保育園 | | ２０人  (±0) | ２５人  (▲2) | 39.6名  (▲1.3) | 42.7歳  - | 6.1年  - |
| 企業委託保育 | | １人  (±0) | １人  (▲1) | 2.0名  (▲1.0) | 43.4歳  - | 5.3年  - |
| 合計又は平均 | | ７７人  (▲2) | １０１人  (＋1) | 143.3名  (▲5.2) | 48.7歳  - | 6.1年  - |

　※派遣職員は非正規職員に含む。下段括弧内は前年４月１日現在からの増減

## ２．職員採用等の状況

　　当年度の職員採用数（直接雇用）は３１名（正規採用９名、非正規採用２２名）でした。前年度の採用数３９名（正規採用１０名、非正規採用２９名）との差▲８名は求人職種減によるものです。職員や関係者を通じた紹介なども含め様々な採用手段を講じるとともに労働条件や環境の充実など処遇改善に取り組みました。

今年度は定年数も一定あり年度末時点離職率は１６．７％（定年含まない１４．４％）と前年から１．５ポイント改善する一方、採用率は▲２．９ポイントの１９．０％と増加率が鈍化しています。期中においては直接採用だけでは当初配置計画が充足しきれないため、派遣業務も引き続き活用しました。

労働市場は必要な情報収集はインターネット活用が広がり、就職活動方法も変化し、流動化傾向にあります。人材の確保と併せ育成や定着も含めた総合的なマネジメントと強化が求められます。

# Ⅸ．許認可に関する事項（定款変更および指定変更）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 許認可年月日 | 指令書番号 | 主な内容 |
| 定款変更 | 変更なし |  |  |
| 廃止 | 2018年8月31日 | - | 2018年9月30日付  移動支援事業廃止 |
| 廃止 | 2018年10月4日 | 奈良市指令福障第1-116号 | 2018年9月30日付  居宅介護、重度訪問介護、行動援護事業廃止 |
| 廃止 | 2018年10月18日 | - | 2018年11月30日付  指定訪問介護事業、奈良市現行相当訪問サービス事業の廃止 |

# Ⅹ．業務の適正を確保するための体制等の整備と運用状況

## １．情報保存管理体制に関する事項

評議員会および理事会議事録など法定文書、重要な職務執行に係る記録および文書は法令および法人諸規程の定めに従い適切な管理に努めています。条例等により介護保険サービス提供に係る記録の保存年限が原則５年に変更に伴い、周知徹底を行うとともに保存年限の延伸処理を行いました。

## ２．効率性確保体制に関する事項

評議員会は当事業計画に従って定時評議員会、臨時評議員会をそれぞれ一回開催するとともに、決議の省略手続きによる定款変更を決議しました。理事会は定款および定款細則の定めに従い３回開催し定期的に業務執行状況の報告を行いました。２０１８年度は訪問介護事業（介護保険ならびに障害福祉サービス）の事業廃止や社会事業に供する基本財産取得など重要な議案について審議が行われました。

常勤役員・管理者会議は毎月２回を基本に開催し理事長並びに常務理事専決事項を中心に協議、共通認識のもと決裁しまいた。また法人及び各拠点の日常業務の運営状況や施策についても連携を密に情報共有に努めました。

拠点ごとには職場会議、運営会議等により日常業務の意思決定がなされています。当年度では先行して通所事業検討会議を３回開催しましたが、連携や効率的な運営を促進するには高齢者事業分野全体での協議体の設置の必要性が生じてきており、協議を継続させます。

## ３．法令遵守体制に関する事項

法令遵守意識の徹底を図るため定期的に教育を実施しています。年２回の新入職員研修・教育ではリスクマネジメントや個人情報保護およびプライバシー保護に関する事項を研修・教育として実施しました。２０１９年４月からの「働き方改革関連法」の順次施行に向け、実務者の研修派遣や改正事項について職場会議等での周知を行いました。

## ４．育成・教育体制に関する事項

法人に設置する教育研修委員会や各事業所に設置する機能別・分野別委員会で研修計画を策定し具体化しました。２０１８年度は「民主的な管理運営」「職場づくり」など人材育成や定着に関する事項と「全職員経営」を実現するための学習が旺盛に進められたことが特徴です。

専門性の向上に向けた資格取得支援を行いました。他法人と連携共同では研修実施に向けた講師派遣などの要請にも積極的に応えながら、それらを活用して技術や技能向上を目指す職員への情報提供に努めました。

# Ⅺ．２０１８年度事業の状況

## １．事業環境と情勢認識

安倍政権は、立憲主義を破壊する強権政治を進め、憲法９条改悪にひきつづき執念を持っており、反戦・平和・基本的人権の尊重を定めた９条２５条を中心に憲法の重大な危機を迎えています。トランプ大統領は核兵器の近代化をうたい、日本に武器購入を押し付け、安倍首相はいいなりにＦ３５を１０２機も買うという異常さで今後の日本の平和と社会保障に重大な影響を及ぼしかねません。一方で平和と立憲主義を求める国民の声が高まり、主権者としての自主的な国民運動を生み出し、政治の転換を求めるかつてない共同が広がっています。紆余曲折はありながらも、市民と立憲野党の共闘が進められ、安倍政権のもとでの９条改悪阻止や統計不正や国政私物化問題、原発ゼロや働き方改悪への共同した取り組みも広がっています。

安倍政権は２０１９年度予算案で軍事費を７年連続で増額し、またもや過去最大の５兆２７５４億円とし、社会保障は自然増分の１２００億円を削減しています。そのうえの１０月からの消費税の８％から１０％への引き上げは経済と福祉を破壊し、一層の格差と貧困を拡大するものです。

介護事業所は経営悪化し廃止・休業・倒産が過去最多となっています。要支援者の通所介護と訪問介護の介護保険はずしや通所介護の介護報酬の引き下げが影響しています。当法人事業所への影響も甚大です。

さらなる「軽度者」の保険はずしや給付削減、ケアプランの有料化は今後に改悪が狙われています。２０１８年度は高額介護サービス費の引き上げ、一部３割負担の導入や２号被保険者の総報酬割による保険料の引き上げ等が実施されました。介護職員の確保の困難も介護事業に重大な影響を与えています。

子ども・子育て支援新制度が実施され、少子化対策としても位置付けられていますが、現実には安心して子どもが産めない状況が続いています。少子化にも関わらず、労働の非正規化と貧困の拡大、共働き家庭の増加などのもと待機児童は減っていません。高まる保育の需要に対して規制緩和と市場化で企業参入の施設を増やそうとしていますが企業主導型保育はうまくいっていません。質の高い保育を求める保護者国民の願いとは逆行するものです。保育の無償化も２０１９年１０月実施予定の消費税１０％への引き上げの増収で賄うとしていますが本末転倒です。保育士等の処遇改善についても不十分なものであり制度に制約のあるものとなっています。奈良市の幼保一元化とこども園化、民営化推進にも市民の反対の声が高まっています。

社会福祉法人はもともと憲法２５条を実現する福祉事業を行う法人として定められ、国民の福祉の充実に大きな役割を果たしてきました。今日、「格差と貧困」の進行のなかでその役割に国民の期待が高まっていますが公的責任を曖昧に法人まかせにすることは憲法２５条の国の責任を後退させるものにほかなりません。

そもそも「格差と貧困」を拡大しているのは安倍政権の政策です。私たちはこれまでも社会福祉法人減免や法人独自減免はじめ「地域公益的な取り組み」を行ってきました。これからも公的責任の肩代わりではなく、制度の狭間にある人々や制度から除外された人々の生存権・基本的人権を守る事業として位置付け、地域要求に応え、制度の創設や拡充改善につなげるものとして取り組みます。

こういう情勢のもとで、民医連加盟の社会福祉法人として、憲法２５条を守り国民の基本的人権や生存権を守ることに、極めて非営利性、公共性の高い法人としての二重の役割があります。まさに法人理念の実現への努力であり、各施設事業の宣言・目標実現への努力こそ求められています。そこに地域住民の強い期待があることは言うまでもありません。私たちの目標は地域住民の幸せであり、職員のいきがい幸せの実現です。

民医連が提起する介護活動の２つの柱、「貧困と格差、超高齢社会に立ち向かう無差別平等の介護」「安全、倫理、共同の営みを軸とした総合的な介護の質の向上」は私たちにとっても強化すべきものです。

社会福祉分野の専門家集団として、地域の実態と困難をつかみ、現行制度や改悪案の問題点を調査や事例を通じて社会的に明らかにし福祉の再生と拡充に向けた建設的提案を国・自治体に行っていくことも重要です。

地域住民との共同で「高齢者・子どもにやさしいまちづくり」「だれもが安心して住み続けられるまちづくり」の前進への事業展開と運動を進めることが当法人の存在意義を地域・行政にもアピールし「市場営利化」の論理をはね返していく力ともなるものです。

地域要求に応え職員を守り経営の発展を進める経営構造を全役職員参加の経営を進め築いてきました。前述の社会情勢のなかこれまでの施設整備と実施事業の効果の向上を目標に個別事業の強化と再編の施策を展開しました。また、連携による活動への役割と期待が高まるなか三法人による協働事業の具体化にも取り組みました。また地域交流室をはじめ、この間の施設整備と施設体系を活かし、地域の要求に応えて地域への貢献をさらに進めていきます。

２０１８年度は各地での集中豪雨や大型台風、地震発生に加え災害級の記録的猛暑が発生し直接的に甚大な被害はなかったものの、災害時や復旧までの課題が浮き彫りになり事業継続の対応策等の整備の強化を継続的に取り組んでいく必要があります。地域の課題は山積みです。地域の方々と地域の福祉力を高めながら行政の公的責任も求め、元気なあたたかいまちづくりをともに進めます。地域に深く根ざして、地域とともに、草の根から地域密着の事業と運動をさらに前進させましょう。

## ２．事業の経過と概況

### （1）高齢者事業分野（障害福祉事業含む）

２４時間体制のある入所系サービスは、一定ニーズがあったもののとりわけ今年度上半期で供給体制・機能の維持状況が事業成果に大きく影響しました。

通所介護サービスは全体として件数および延回数とも前期から後退しています。制度改定など経営環境の変化で今後さらに機能性低下の可能性もあり中長期的な視点での対策を検討しています。居宅介護支援事業は介護予防支援、居宅介護支援とも前期から件数増となりました。法人に寄せられた期待に積極的に応えていくことが求められています。訪問介護事業は、近隣地域の他の事業所の展開状況なども踏まえ、一定の役割を終えたものと判断し障害福祉事業・介護保険事業所を廃止しました。

利用者件数は、訪問介護事業および通所介護での件数減があったものの高齢者住宅で前期＋２０％、短期入所で前期＋１０．５％、居宅介護支援事業で前期＋７．４％の件数増から高齢・障がい者事業分野全体で前期同数の５，９２２件を維持しました。

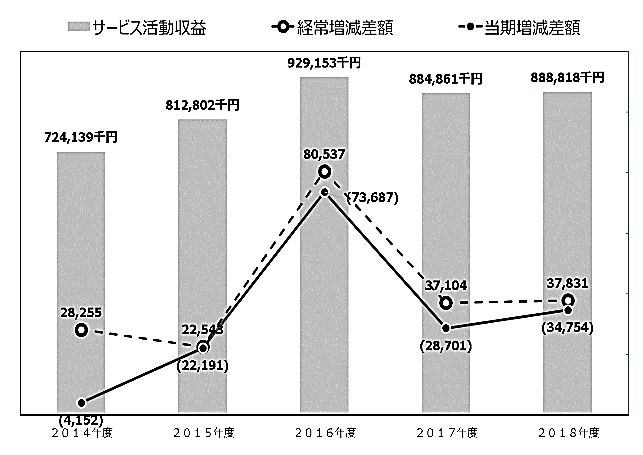
延利用回数の状況では、特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護２事業および訪問介護事業の５つの事業合計は事業再編も影響し前期比９７．４％の５２，９６３回と前期から１，３９４回の減少となりました。

なお、通年事業を実施した４事業合計（特養、短期、通所２）では前期＋０．８％と前期実績を概ね維持しました。特別養護老人ホームで前期＋２．１％のほか、短期入所、地域密着型通所介護も前期から延数が増加しました。

### （2）保育事業分野

　　　保育事業分野では保育所の年間登録件数は前期比９７．０％の１，６７１件と５１件減少となりました。適時、随時の情報発信などが必要な情勢から情報発信や情報提供を強化しました。地域子育て支援拠点事業の新たな取り組みとして２０１８年１０月より奈良市から乳児家庭全戸訪問事業を受託し保健師を中心に訪問活動を行っています。

## ３．事業活動収支の状況

経営基盤の安定と強化を図るため、日常の経営活動においては当事業年度においても国庫補助金特別積立金を除外した経営評価を用いて適正水準の把握および目標設定を行いました。

厳しさを増す経営環境のもと、事業所再編や供給体制の課題なども絡み、利用者確保が当初計画どおりの成果を得られなかったことにより、当年度予算は未達成（５１，２４２千円減（９４．５％））でしたが、職員の日々の奮闘もあり当期のサービス活動収益は８８８，８１８千円（前期比＋１００．４％）と前年水準は維持しました。

各事業部門におけるサービス活動収益と利用者計画等の到達状況は表１のとおりであり、サービス活動収益目標との差は事業規模の大きい特別養護老人ホームを含む拠点での状況が反映しました。

サービス活動費用は８４０，６２４千円（予算比９５．３％、前期比１００．５％）で主要経費は予算内執行（人件費予算比９３．８％、事業費予算比９８．４％、事務費予算比９６．４％）の一方、前期比較ではサービス活動収益のそれの伸び率を超え、非資金費用（減価償却費）の目減りを考慮すると前期からは人件費を中心に主要経費の大幅な増加し結果、経常増減差額は３７，８３１千円（予算▲９，６１０千円（７９．７％）、前期＋７２８千円（１０２．０％））、国庫補助金を除外した評価で黒字は確保したものの当初計画の目標増減差額の超過達成には至りませんでした。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 表１：サービス活動収益、利用状況の差異一覧（金額単位：千円） | | | | | |
|  | サービス活動収益 | | | 利用動向 | |
| 実績 | 予算差 | 前年差 | 計画差 | 前年差 |
| 法人単位 | 888,818 | ▲51,242 | ＋3,956 | － | － |
| 特養ホーム | 418,602 | ▲14,821 | ＋13,427 | ▲803日 | ＋606日 |
| ショートステイ | 73,950 | ▲10,134 | ＋2,055 | ▲881日 | ＋20日 |
| 地域密着通所 | 53,728 | ▲7,307 | ＋627 | ▲205回 | ＋24回 |
| 訪問介護 | 6,920 | ▲7,080 | ▲5,672 | ▲1140ｈ | ▲1592ｈ |
| 通所あこだ | 53,333 | ＋23 | ▲3,923 | ▲94回 | ▲215回 |
| 居宅介護支援 | 15,448 | ▲26 | ＋277 | ＋5件 | ＋81件 |
| 小規模多機能 | 47,542 | ▲3,836 | ＋3,890 | ▲19件 | ＋4件 |
| 高齢者住宅 | 11,982 | ▲1,391 | ＋3,039 | ▲17件 | ＋17件 |
| 保育所 | 197,123 | ▲5,330 | ▲7,279 | ▲34件 | ▲51件 |
| 委託保育 | 10,190 | ▲1,340 | ▲2,486 | － | － |

２０１９年度に計画の遊歩道整備寄附金それに伴う基本金組入ならびに賃貸であった事業用地の土地取得に伴い固定資産売却損・処分損（権利）を特別増減で計上し当期活動増減差額は３４，７５４千円（予算比７３．２％、前期比１２１．１％）の成果でした。サービス区分別の増減差額と成果は表２のとおりです。

| 表２：当期増減差額の状況一覧（法人単位およびサービス区分別） | | | | | | | |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目  サービス区分 | | 決算額 | | 予算達成率 | | 前期１００対比 | |
| 経常増減差額 | 当期増減差額 | 経常増減 | 当期増減 | 経常増減 | 当期増減 |
| 法人単位 | | 37,831千円 | 34,754千円 | 79.7％ | 73.2％ | 102.0％ | 121.1％ |
| こがねの里 | 特養ホーム | 32,786千円 | 28,891千円 | 89.1％ | 93.8％ | 95.0％ | 111.9％ |
| ショートステイ | 318千円 | ▲20,803千円 | 6.0％ | ▲545.4％ | 967.9％ | ▲753.9％ |
| 地域密着通所 | 5,817千円 | 1,122千円 | 58.3％ | 12.6％ | 89.9％ | 21.1％ |
| ホームヘルプ | ▲3,293千円 | 12,774千円 | ▲249.8％ | 1178.4％ | ▲274.8％ | 970.1％ |
| 本部 | ▲15,511千円 | 5,352千円 | 97.2％ | 8109.7％ | 92.6％ | - |
| あこだ | 通所介護 | ▲4,990千円 | ▲7,927千円 | 89.2％ | 70.3％ | 15.2％ | 25.0％ |
| 居宅介護支援 | 595千円 | 221千円 | 36.4％ | 16.6％ | 145.4％ | 116.8％ |
|  | 小規模多機能 | 333千円 | ▲572千円 | 11.0％ | ▲26.2％ | 1058.5％ | 13.9％ |
| 公 | 高齢者共同住宅 | 1,253千円 | ▲1,827千円 | 42.9％ | ▲198.5％ | 237.1％ | 176.1％ |
|  | 保育所 | 20,524千円 | 17,524千円 | 298.3％ | 451.6％ | 80.4％ | 80.3％ |
| 公 | 企業委託 | 0 | 0 | - | - | 100.0％ | 100.0％ |

## ４．設備投資および支払源泉の状況

当期における設備投資は総額６９，９９６千円（取得およびリース契約物件総額であり実際のＣＦと一致しない）で拠点別の主な設備投資内容は下記（1）から（4）のとおりです。介護予防サイクルハウス・あこだ拠点の事業用地は賃貸借契約の年数等も踏まえ自己所有としました。

その他の設備投資はおもに既往設備の耐用年数到来や経年劣化に伴う更新または入替およびサービス内容の充実を目的とした備品購入などです。設備投資の支払い財源は自己資金（積立金又は前期末支払資金残高）およびリース（将来返済分含む）により資金調達をしており、外部資金調達についての特記事項はありません。

### （1）特別養護老人ホームこがねの里拠点

　　　　１３，４８６千円（こがねの里本館ＬＥＤ照明更新、宿直室ルームエアコン入替、全自動洗濯機、ファイルサーバー更新、本館ナースコール電話設備（リース））

### （2）介護予防サイクルハウス・あこだ

　　　　５４，９８７千円（事業用地、水道節水システム）

### （3）小規模多機能ホームあかりの家

　　　　　　　２６７千円（ルームエアコン入替、介護用電動ベッド）

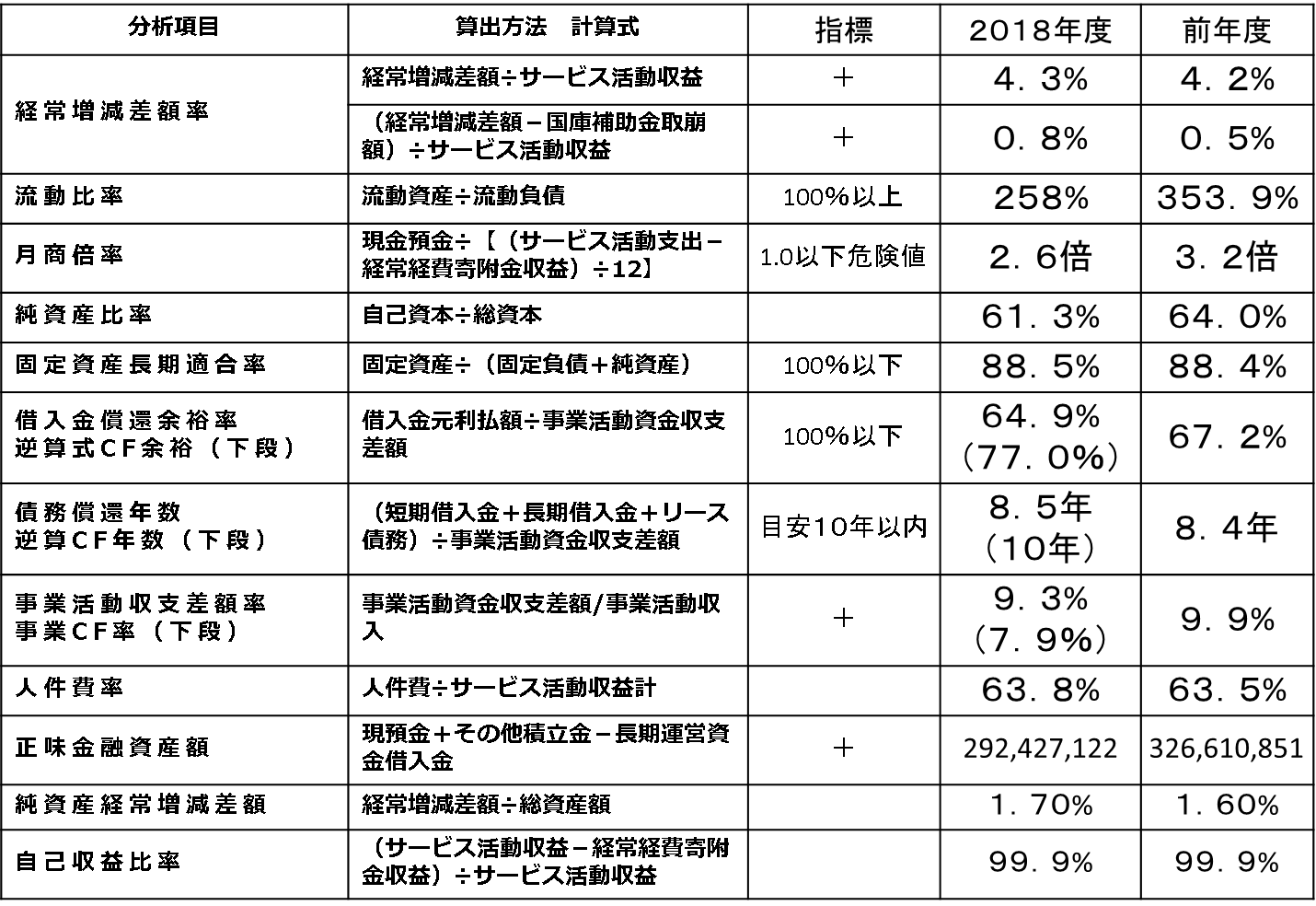
### （4）あかね保育園拠点

　　　　　１，２５６千円（水道節水システム、看板（サイン）、ノートパソコン、避難車、保育用具）

## ５．資金収支および財務の状況

　　　日常の経営活動においては資金収支計算書を基本にしつつ同計算書を組み替えた逆算式キャッシュフロー計算書をもとに月次の残高や財務状況の把握に努めました。

表３のＣＦ計算書によれば、前述の経営活動の結果、通常のサービス活動による収支差額（事業活動ＣＦ）は６９，６５９千円（予算比７３．８％）の到達でした。

投資活動では前述の新規設備投資も含め▲６４，９６１千円の資金需要となりました。賃貸借料負担など中長期的な源泉や現在の財務状況も踏まえ、財務活動においては新たな外部資金調達はなく、加えて将来の設備投資などの財源確保のため目的別長期性預金振替など（新規積立額２７，１００千円）により当事業年度期末の現預金残高は期首から▲５９，９９４千円の１７３，９３１千円となりました。

　　　設備等の更新は事業開始年度からも高齢者事業分野で先行する状況です。保育事業分野での設備更新財源は継続的に確保できる状況から、高齢者事業分野での資金獲得力の増強が喫緊の課題です。

| 表３：逆算式キャッシュフロー計算書（資金収支計算書組み替え） | | | | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 事業分野  段階別の科目 | | 法　人　単　位 | | |
|  | 高齢者事業分野 | 保育事業分野 |
| 事業活動によるＣＦ（①） | | 69,659千円 | 50,075千円 | 19,585千円 |
| 投資活動によるＣＦ（②） | | ▲64,961千円 | ▲62,917千円 | ▲2,044千円 |
|  | 有形固定資産取得支出（－） | ▲69,007千円 | ▲65,963千円 | ▲2,044千円 |
| 無形固定資産取得支出（－） | ▲2,011千円 | ▲2,011千円 |  |
| ファイナンスリース返済（－） | ▲1,943千円 | ▲1,943千円 |  |
| 上記以外の固定資産増減（＋－） | 7,000千円 | 7,000千円 |  |
| 財務活動によるＣＦ（③） | | ▲64,692千円 | ▲40,469千円 | ▲24,224千円 |
|  | 施設整備寄附金収入（＋） | 1,306千円 | 1,306千円 |  |
| 経常経費寄附金収入（＋） | 1,305千円 | 1,305千円 |  |
| 借入金利息補助金収入（＋） | 155千円 | 71千円 | 81千円 |
| 長期借入金（設備）返済支出（－） | ▲34,122千円 | ▲32,622千円 | ▲1,500千円 |
| 協力有利息債（設備）返済支出（－） | ▲3,000千円 | ▲3,000千円 |  |
| 協力無利息債（設備）返済支出（－） | ▲5,300千円 | ▲5,300千円 |  |
| 長期貸付金増減額（＋－） | 57千円 | 57千円 |  |
| 長期性預金振替増減額（＋－） | ▲25,810千円 | ▲8,100千円 | ▲17,710千円 |
| 上記以外財務活動増減額（＋－） | 716千円 | 716千円 |  |
| 内部取引増減額（＋－） |  | 5,098千円 | ▲5,098千円 |
| 現預金および現金同等物増減額（＋－） | | ▲59,994千円 | ▲53,311千円 | ▲6,683千円 |
| 期首現預金および現金同等物残高 | | 233,925千円 | 175,168千円 | 58,765千円 |
| 期末現預金および現金同等物残高 | | 173,931千円 | 121,857千円 | 52,074千円 |
| 期末長期性預金（積立資産）残高（＋） | | 118,496千円 | 18,600千円 | 99,896千円 |

## ６．評議員会、理事会に関する事項

| 開催回数  開催内容 | 開催年月日 | 出席者数 | | | 主な決議事項および報告事項 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評議員 | 理事 | 監事 |
| （第1０期18年度定時）  評議員会 | 2018/6/24 | ９ | ７ | ２ | 【決議および承認事項】   1. 2017年度会計計算書類および財産目録の承認   【報告事項】   1. 前回評議員会報告 2. 業務報告 3. 経理報告 4. 2017年度事業報告および監事監査等報告 |
| （第1０期18年度臨時）  評議員会 | 2019/3/24 | ８ | ６ | ２ | 【決議および承認事項】   1. 2018年度理事の報酬額の決定 2. 2018年度監事の報酬額の決定   【報告事項】   1. 前回評議員会報告 2. 業務報告 3. 経理報告 4. 2０19年度事業計画・収支予算 |
| 第10期  評議員会  （決議みなし） | 2019/3/31 | - | - | - | 【決議および承認事項】  定款の変更 |
| （第10期第４回）  理事会 | 2018/5/26 | - | １２ | ２ | 【決議および承認事項】   1. 2017年度事業報告の承認 2. 2017年度の決算報告の承認 3. 2017年度会計における資産積立の承認 4. ナースコール設備リース契約締結   【報告事項】   1. 第10期第３回理事会報告など 2. 業務執行の状況および業務報告 3. 2018年4月度経営報告および支出・債務負担報告 4. 人事報告 5. 監事監査報告 |
| （第10期）  理事会  （決議みなし） | 2018/10/21 | - | - | - | 【決議事項】   1. 障害福祉サービスならびに介護保険法に定める訪問介護事業を廃止すること 2. 定款変更を評議員会に提案すること |
| （第10期第５回）  理事会 | 2018/11/17 | - | １０ | ２ | 【決議および承認事項】   1. 遺言執行業務受任・遺贈承認の件 2. 土地譲渡契約を締結する件 3. 特別養護老人ホーム照明設備更新の件 4. 奈良市第7期介護保険事業計画公募を想定した対応 5. あかね保育園園長の選任（定款細則） 6. 評議員会招集に関する件   【報告事項】   1. 前回理事会等報告 2. 業務執行の状況および業務報告   法令順守等の調査等の状況   1. 2018年度上半期および10月度経営報告と支出・債務負担報告 2. 人事報告 3. 労働組合等協議報告 |
| （第10期第６回）  理事会 | 2019/3/26 | - | １１ | ２ | 【決議および承認事項】   1. 諸規程の一部改正 2. 就職支度一時金運用規程の制定 3. 経理規程の一部改正 4. 定款変更を評議員会に提案する件 5. あかね保育園副園長の選任 6. 2019年度事業計画・収支予算の承認 7. 2019年度理事および監事報酬額を評議員会に提案する件 8. 2019年春闘要求に対する回答 9. 第10期第7回理事会開催日程   【報告】   1. 前回理事会報告 2. 2018年度社会福祉法人専務・事務局長・施設長会議報告（研修参加報告） 3. 業務執行の状況および業務報告 4. 2019年2月度経営報告と支出・債務負担報告 5. 人事報告 6. その他報告 |

## ７．評議員選任・解任委員会に関する事項

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 開催回数  開催内容 | 開催年月日 | 出席者数 | | 主な報告事項および決議事項 |
| 委員 | 理事 |
| 開催なし |  |  |  |  |

## ８．２０１７年会計年度分の監事監査の状況

　　◇　監査日時　　２０１８年５月１７日

　　◇　監査人　　　城　孝至、百上　宜明

　　◇　改善事項　　特記なし

## ９．会計に関する専門家の活用状況

### （1）２０１７年会計年度分決算調査

◇　監査日時　　２０１８年５月１４日

◇　監査人　　　公認会計士　田中　淑寛（協働公認会計士共同事務所）

### （2）２０１８年度会計分決算残高点検

◇　監査日時　　２０１８年８月７日

◇　監査人　　　公認会計士　田中　淑寛（協働公認会計士共同事務所）

◇　改善事項　　①預かり金現金過不足発生時の対応、②滞留借受金の処理、③前受金の計上判断

◇　対応状況　　①について発生時に一旦「不足額」「過多額」を計上し帳簿上で認識するように改めた。②について負債性の有無を調査の結果、ない旨判明したため雑収益で処理した。③についてその性質について認識をあらためて会計業務の管理を徹底した。

### （3）２０１８年度会計分上半期決算調査

◇　監査日時　　２０１８年１１月８日

◇　監査人　　　公認会計士　田中　淑寛（協働公認会計士共同事務所）

## 10．所轄庁からの報告徴収・検査等への対応状況

| 内容 | 日時 | 対象 | 要改善指摘事項 | 対応状況 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 健康保険・厚生年金保険事務についての総合調査 | 2018/9/20 | 社会福祉法人秋篠茜会 | なし |  |
| 平成３０年度社会福祉施設指導監査（集合監査） | 2018/8/24 | あかね保育園 | なし |  |
| 平成３０年度社会福祉施設に対する書面監査 | 2018/10/3  通知 | 特別養護老人ホームこがねの里 | なし |  |

## 11．業務の適正、サービスの確保のための教育・研修実施状況

| 研修内容 | 開催年月日 | 参加数 | 備　　　考 |
| --- | --- | --- | --- |
| 新入職員研修（春季） | 2018/4/2 | １６名 | 理念歴史学習、リスクマネジメント、施設見学 |
| 三年目職員研修 | 2018/6/15 | １０名 | 法人理念・民医連方針講義、接遇・マナー、グループワーク、職員教科書具体化 |
| 経営担当者学習会 | 2018/6/30 | ２名 | 会計指標の意義、講演「会計の基本と経営」実態調査 |
| 職責者会議（第1回） | 2018/8/7 | ２７名 | 講演「社会福祉法人会計の基本と経営財務諸表の基本的な見方～秋篠茜会の経営状況にふれ」  田中　淑寛公認会計士（協働公認会計士共同事務所）  2018年度第１四半期報告と総括 |
| 五年目職員研修 | 2018/9/14 | ７名 | 理念・民医連方針講義、接遇・マナー、グループワーク（職員教科書、コーチング等） |
| 新入職員研修（秋季） | 2018/10/1 | １０名 | 理念歴史学習、リスクマネジメント、施設見学 |
| 職責者研修（第2回） | 2018/11/27 | ２２名 | 上半期総括と今後の課題、介護福祉・責任者会議研修報告および意見交換 |
| 学術運動交流集会 | 2018/12/2 | １０７名 | テーマ～介護・保育の魅力　日々の実勢から社会・地域に発信しよう！～  講演「今日の社会福祉をめぐる情勢と保育・介護の課題」  中山　徹教授（奈良女子大学）  演題発表(10演題)、DVD上映 |
| 社会福祉法人管理者養成研修フォローアップ研修 | 2018/12/6～12/7 | １名 | 講演「地域包括ケアと白十字ホームの活動」  西岡　修氏（社会福祉法人白十字会）  講演「社会福祉法人における財務諸表の見方と経営分析の視点」  田中　淑寛公認会計士（協働公認会計士共同事務所）  グループ討議 |
| 職責者会議（第3回） | 2019/2/10 | １９名 | 講演「民主的な管理運営と職場づくり」  川口　啓子教授（大阪健康福祉短期大学） |
| 全職員研修会議 | 2019/3/12 | ７２名 | 2019年度の事業計画案・収支予算案の共有  永年勤続表彰 |

## 12．苦情・相談内容、件数

苦情・相談件数は３３件（前年３８件）でした。申出の多くはご本人またはご家族等を通じた申出が全体の８１％（前年７３％）を占めています。苦情相談内容ではサービス内容が１６件（前年１４件）、ついで職員の接遇（前年１２件）、説明・情報提供（前年５件）が６件でした。説明・情報提供については昨年同様「事前の十分な説明」への意見に加え、家族や保護者への適時適切な連絡や報告のあり方についての意見が寄せられました。その時点で事実や状況が判明していない旨の伝え方や配慮なども含め、当事者の十分な理解や納得を得る取り組みを継続していく必要があります。

| 事業所 | 申　出　者 | | | | | 申　出　・　苦　情　の　内　容 | | | | | | | |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 本人 | 保護者・家族 | 事業者等 | 地域住民 | 投書 | サービス内容 | 職員の接遇 | 利用料 | 説明・情報提供 | 施設管理 | 被害・損害 | 権利侵害 | その他 |
| こがねの里 | ４ | １６ | ３ | ２ | １ | １３ | ４ |  | ５ | ２ |  |  | ２ |
| あかね保育園 |  | ３ |  |  |  | ２ |  |  | 1 |  |  |  |  |
| サイクルハウス | ３ |  |  |  |  | １ | ２ |  |  |  |  |  |  |
| あかりの家 |  | １ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | １ |
| 計 | ７ | ２０ | ３ | ２ | １ | １６ | ６ |  | ６ | ２ |  |  | ３ |

## 13．第三者評価、運営推進会議等の開催状況

### （1）運営推進会議開催状況

| 内容 | | 開催日時 | 出席者数 | | 議題、意見、要望 | 措置状況 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 外部 | 事業 |
| 小規模多機能（あかりの家） | 運営推進会議 | 2018/5/16 | ４ | ２ | 17年度外部評価総括表の確認  サポーター養成講座への協力要請  事故報告 | 外部評価内容について今後の改善へ  奈良市への事故報告 |
| 小規模多機能（あかりの家） | 運営推進会議 | 2018/7/25 | ４ | ２ | 活動状況評価、困難事例等対応  ふれあい祭り、防災訓練案内  「認知症見守り模擬訓練」 | 通いサービス利用での改善  自治会、包括支援センターなど主催企画に参加 |
| 小規模多機能（あかりの家） | 運営推進会議 | 2018/9/19 | ３ | ２ | 活動状況評価、生活の質向上評価  ラン伴参加要請 | 音楽療法、外出企画などの取り組み  参加確認 |
| 小規模多機能（あかりの家） | 運営推進会議 | 2018/11/21 | ４ | ２ | 活動状況評価  推進会議委員の検討  外部評価方法の確認 | 地域諸行事への参加評価  相談の上検討  運営推進会議活用 |
| 小規模多機能（あかりの家） | 運営推進会議 | 2019/1/16 | ４ | ２ | 18年活動状況評価  介護職員確保  外部評価改善点の取組 | 諸活動や行事・交流参加への評価  配置状況報告  取り組みの推進確認 |
| 小規模多機能（あかりの家） | 運営推進会議 | 2019/3/20 | ３ | ２ | 外部評価（事業所、個人評価、施設見学調査） | 改善の進捗評価と次年度課題の確認 |
| 地域密着型デイ（こがね） | 運営推進会議 | 2018/9/18 | ４ | ４ | 家族（介護者）との情報共有、地域住民と専門職とのネットワークづくり、災害時の安否確認、高齢者の居場所 | 災害時の利用者安否確認の継続  施設設備を活用した場の提供 |
| 地域密着型デイ（こがね） | 運営推進会議 | 2019/3/19 | ３ | ４ | 世代間交流、家族（介護者）同志の交流機会の確保 | よりあいカフェ、オレンジカフェ開催、場の提供の検討 |

## 14．社会福祉充実残額および社会福祉充実計画の策定状況

２０１８年会計年度における社会福祉充実残額は０円以下となり、よって社会福祉充実計画は策定していない。

①活用可能な財産　　　　　　　　　　　　　　　６億　　６１５万３，６９６円

②社会福祉事業等活用している不動産等　　　　　３億５，８８５万９，１４６円

③再取得必要財産 　　　　　　　　　　　　　　 ４億８，８７１万２，３４２円

④必要な運転資金（事業活動支出３ヶ月分）　　　２億　　２７８万６，７０７円

⑤計算の特例（年間事業活動支出）a　　　　　　　８億１，１１４万６，８３１円

a　当法人においては③（再取得必要財産）＋④必要な運転資金が年間事業活動支出（＝⑤）より過少なため計算特例が適用される

⑥福祉充実残額＝　①-（②＋③+④）＝　　　　▲４億４，４２０万４，４９９円

　⑦計算の特例適用　＝　①-（②+⑤）＝　　　　▲５億６，３８５万円

## 15．社会福祉事業の実施状況

### （1）特別養護老人ホーム

①　入所申込および待機者状況

２０１８年度の申込者数は１０８件（前年差▲１０件）、申込取消者数は１０４件（前年差▲１７件）の結果、４月１日現在の待機者数は下表のとおり４３１件（前年同日差＋６件）となりました。同日で要介護認定区分が判明している待機者のうち要介護３以上は３５３件（前年差＋３９件）（要介護３…１６０件（前年差＋１５件）、要介護４…１２３件（前年差＋２２件）、要介護５…７０件（前年差＋２件）です。

特別養護老人ホームの入所者を決定する入所判定会議は毎月の定例開催を基本とし１２回開催しました。一般入所申込者および優先入所申込者の判定に加え、法人内の介護支援専門員も定期的に出席し、在宅入所相互利用やショートステイなどの居宅サービスでの対応について協議し、多面的な検討および連携や情報共有が行えました。一般入所申込者について延３４名の判定を行いました。

優先入所の入所受付を４月から再開し判定については延８名の検討を行いましたが、うち１名は緊急性に乏しく、他の居宅サービスで対応可能との判断から「保留」判定となりました。

いわゆる特例入所申込が１件あり、保険者からの意見照会の結果も踏まえ判定を行い、申込みを受理しました。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 基準日 | | 合計 | | 自宅 | | 病院 | | 老健 | | 養護 | | その他 | | 6月未満 | | 6～12月 | | 1年超 | |
| 2019/4/1 | ４３１  （％） | | ２３５  （54.5） | | ５７  （13.2） | | ５３  （12.2） | | ０  （0） | | ８６  （19.9） | | ４９  （11.3） | | ４８  （11.1） | | ３３４  （77.4） | |
| 2018/4/1 | ４２９  （％） | | ２３０  （53.6） | | ５８  （13.6） | | ４９  （11.4） | | ０  （0） | | ９２  （21.4） | | ５５  （12.8） | | ６１  （14.2） | | ３１３  （73.0） | |
| 2017/4/1 | ４３２  （％） | | ２２９  （53.0） | | ６０  （13.9） | | ５３  （12.2） | | ０  （0） | | ９０  （20.8） | | ４９  （11.3） | | ４１  （9.4） | | ３４２  （79.1） | |

②　特別養護老人ホーム入居者の状況

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年月日 | その他 | 要介護度 | | | | | 在籍者  合計 | １日現在入院者 | １日現在入所者数 |
| １ | ２ | ３ | ４ | ５ |
| 2019/4/1 | ０人 | ０人 | １人 | ３２人 | ２７人 | ２８人 | ８８人 | ５人 | ８３人 |
| 2018/4/1 | ４人 | ０人 | １人 | ２８人 | ２８人 | ２０人 | ８１人 | ７人 | ７４人 |
| 2017/4/1 | ０人 | ０人 | ０人 | ３７人 | ２７人 | ２３人 | ８７人 | １０人 | ７７人 |

　在宅入所相互利用を除く入所件数は３８件で同退所件数は３１件でした。前年度に運用休止した６室（１ユニット）は第一四半期より受け入れ開始したことにより、入所延数は予算比９７．４％でしたが、前年比からは１０２％と改善しました。しかし、前年度と同様、入院の日数は前年度▲１３２日減少したものの出現率６．７％でした。特養ホームに入所を希望する待機者も一定数あることから有効かつ効率的な運営推進のため、長期的な入院が見込まれる場合、早期に次期入所者の受け入れを行えるよう対策をとり、ご家族や医療機関と連携しました。

退所事由として、施設で看取りとして最期を迎えられる又は医療機関入院中に亡くなられる方が最も多く２６件と退所事由の約８割を占めました。それ以外の退所事由は（より頻度の高い医療の必要性等から）他機関への転所でした。

平均介護度は始期が３．８でしたが、終期には３．９と徐々に重介護度化しています。体調不安定や日常生活介護がほぼ全介助の方が多く、特に栄養マネジメントや食事介助において重点的な検討が必要なケースが多くありました。また、受診において、皮膚科受診が必要なケースが増加し、毎月２０件前後となっています。加齢による皮膚乾燥や掻痒感によるかきむしりによる要因が多く、日々のスキンケアが重要です。

ご家族やボランティアの協力を得て、毎月行事を実施しました。日常的には、心身の維持または改善効果を期待し、５月より、看護員と介護員と共同で集団リハビリ体操や歌唱等を担当しました。時間や内容等が変更となりましたが、大きな混乱はなく受け入れられました。

### （2）こがねの里ショートステイ

前年度より引き続き１ユニットの受け入れを停止していましたが、１月より全面的に受け入れを開始しました。新規利用者が年間６４名となり、前年度＋４１名で、その内１４名は一両日中に利用を希望される緊急的な利用、また内２０名が継続利用となりました。供給体制が十分とは言いきれない中での新規利用ニーズの応需には苦労もありましたが、後の全室稼働時の需要増に大きく貢献し、タイミング逃さず期待やニーズに応えることの重要性を再認識しました。奈良市からの要請を受け、緊急的に１名を受け入れたことは特徴としてあげられます。

長年、法人サービスを利用されていた方が独居で身寄りが無いため、最期をこがねの里で迎えたいと希望されていました。特養入所は決定していましたが、入所までに至らず、ショートステイで最期を看取りました。様々な人生を歩まれている利用者の願いに応える事の難しさと大切さを学びました。

同一利用者での内出血事故が継続して発生し、介助方法について都度見直しました。入退所時に皮膚状態を記録し、家族やケアマネージャーとの情報共有に努めました。入所中の事故は、防ぎきれない事故もありますが、事故に限らず、安心して利用してもらうためには、家族との関係をどのように築いているかという点も事業所への信頼に大きく影響しているケースが多くありました。

### （3）こがねの里デイサービスセンター

今年度、１日平均利用者数が１４．９名と前年度と同程度であり、予算到達に至りませんでした。しかし、これまでつながりが無かった居宅支援事業所のケースが増えました。件数は少数ですが、多くの居宅支援事業所と繋がる事で、こがねの里デイサービスを知ってもらう機会のため、デイサービス通信とは別に紹介用のデイサービスチラシを作成し、今後も法人内のデイサービス合同通信の発行を検討する等、認知度を広げていく努力を検討しました。

活動内容として、日々のプログラムを見直し、誕生日企画を継続し、少人数のクラブ活動を開始しました。また、入所部門との合同企画や子育て支援センターを招待した公開行事等、デイサービスだけではなく、多くの利用者・職員・家族が交流できる機会を目指しました。今年度の経験を活かし、運営推進会議でも要望があった「利用者家族同士の交流の機会」を検討していきます。

台風で１日休業しましたが、冬季の感染症による休業はありませんでした。大阪北部地震や台風の際は、全利用者に安否確認を行いました。中学校への講師派遣や地域災害訓練等、地域貢献活動の幅を広げ、地域密着型通所介護としての役割を深めました。

平均介護度２．５２(前年度＋０．１１)でした。前年度は、２月３月以外は要介護３以下の方が最も利用延回数が多かったですが、今年度は６月１２月に要介護３の方、以外は要介護４か５の方の延回数が最も多くなっています。重篤な疾病をもった利用者が少ないながら増加し、数回の利用で停止となる事例が多い事と全体的に軽介護度者の利用回数が減ってきている事が安定的な運営の課題となっています。

### （4）こがねの里ホームヘルプセンター

年度当初にはサービス提供内容や就業ニーズに応じた採用方針のもと一定職員体制補強しました。しかしながら効率性、収益性の低迷が続く中、上半期途中で職員体制の悪化による新規利用者の獲得や既存利用者のサービス提供が実態的に困難な状況となりました。

実施事業の指定更新を迎える年度であったことや近隣地域での他の訪問介護サービス事業所の展開状況や当該事業の累積債務解消の実現性なども検討した結果、当法人での訪問介護サービス事業は一定の役割を終えたものと判断し２０１８年９月末に障害福祉事業、２０１８年１１月末に介護保険事業を廃止しました。

当該事業はとりわけ介護報酬や地域ニーズ・利用動向の変化、人材確保課題の影響は経営に表面化しやすく、その意味では十分な対策を講じきれませんでした。何よりそれらの状況は経営環境・背景であり原因ではありません。当法人の経営方針である事業活動の到達と現状の共通認識の上にたった全職員による経営と民主的管理運営を徹底することの必要性が教訓となりました。

### （5）介護予防サイクルハウス・あこだ

総合事業現行相当通所介護サービスの利用者が半数を占めるなか、介護報酬を中心とした制度改定を背景もあり、社会福祉会計においても赤字予算編成でのスタートとなりました。日平均４３人の利用数を確保しつつ、改善に向けた事業の見直しの議論を行うことを目標に取り組んできました。

引き続き積極的に新規利用者を受け入れ１１月までを総じてなんとか運営してきましたが、冬季にかかり年末年始の行事や入院等より長期の利用中止者が相次ぎました。新規利用者の受け入れも並行しましたが、カバーするに及びませんでした。伴って、法人の理念や基本的立場から、「介護を予防したい。自分のことは自分でしたい。」との利用者や家族の思いに寄り添い、他者との交流を通し、機能訓練もしながら、楽しみのある居場所（通い場所）づくりについて、職員会議で事業の継続の観点からも議論を繰り返しました。

１月からは、こがねの里デイサービスとの合同での検討会が開始され職場に持ち帰り内容を深めています。事業所内研修・学習・個人の面談各種マニュアル整備など管理運営課題については次年度の課題で引き続き取り組みを強めます。

### （6）小規模多機能ホームあかりの家

職員体制と管理体制の困難は続いていますが、地域の要望と期待に応え、引き続き利用者増(利用減を克服し増やす)を目標に努力してきました。

・特養ホーム入所待ちの方の受け入れも行うことができました。

・あやめの里入居とともに支援を必要とする方も相互の協力で利用頂くことができました。

・地域包括支援センターからの困難事例の受け入れにも努力し信頼を強めています。

・連泊利用は３～４床を基本にベッド活用し、既利用者の要求に応えつつ、病院退院時等の要求に応えることも必要ですがやむをえず５床の時期もありました。あやめの里入居へと連携、改善してきました。

・その際もお試し利用（体験利用）の柔軟な受け入れや見学を行い、利用につながっています。

・あかりの家通信の発行、活用も大きな役割を果たしています。

以上の取り組みのなかで前年度の経常増減差額を大きく改善することができましたが職員体制の年度途中での困難もあり、一時利用制限も行ったなかで予算には未達成となりました。

職員体制・管理体制の整備改善は引き続いての課題です。もともと他施設他事業所で利用困難な方や閉じこもり気味の方の受け入れもありました。利用者の高齢化や認知症の進行に伴い、今後の在宅生活に不安が見られる方もおられ、利用者数では不安定な状況もひきつづきあります。

職員会議を軸にした管理運営の改善と教育研修の強化、音楽療法やレクの強化、医療との連携やリハビリ強化など事業計画の遂行に取り組み、利用者・家族にも喜ばれています。職員の研修とレベルアップに岡谷会主催の介護職員実務者研修も活用させて頂きました。認知症へのケアや介護スキルのアップも進められました。医療面ではひきつづき看護職員の日勤帯への毎日配置への努力、作業療法士の週１回の配置でリハビリへの取り組み強化や音楽療法やレクレーションに習熟した職員の奮闘も利用者の楽しみと意欲認知症の周辺症状の維持改善につながっています。食事やおやつレク、外出レク、利用者の「～したい」をかなえる取り組み、訪問サービスの強化、地域やこども達との交流もひきつづき取り組まれました。

これらは加算を活かし質強化の取り組みともなりました。

運営推進会議を活用しての外部評価等を活かし、改善策を実施し、介護の質の改善と事業整備、法的整備を進めてきました。事業所更新申請の取り組みや介護サービス情報の公表も改善に活かしています。

改めて法人理念と「あかりの家の福祉宣言」を全職員の目標として日々の介護のなかで確認実行し、利用者第一の実践で職員の意欲とチームとしての和を大切にし、小規模多機能ホームの優位点も確信にして取り組むことが重要となっています。

2018年度　予算と実績（利用登録数・実人数）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月　日 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 2018予算 | 12名 | 12名 | 13名 | 13名 | 14名 | 14名 | 14名 | 15名 | 15名 | 15名 | 16名 | 16名 |
| 2018実績 | 12名 | 12名 | 14名 | 14名 | 14名 | 12名 | 12名 | 12名 | 11名 | 12名 | 13名 | 13名 |

### （7）あかね保育園（保育所）

今年度は４月当初より職員体制を充足確保したものの、近隣施設では定員増をした保育園が２カ所、昨年から新たに保育園が２カ所新設されるなど、入所可能な保育園も増加した中、０歳児の入園希望が少なく、また幼児クラスでの転居に伴う退園もあり９月までは厳しい状況が続きました。

しかし、施設見学者へのアプローチや支援センターの協力で１０月には１４３名と目標に近づくことができました。公定価格内処遇改善加算では昨年より１％増の１８％（昨年１７％）となり、入所児童や障がい児保育事業加算等の増加により事業収益は増収となりました。年度を通して保育士の病欠者等（産休・育休含む）が８名出たものの、職員間の協力及び頑張りで、２４名を卒園させ、在園児を無事進級させることができました。今後、制度の動向掴みつつ、保育園の安定した運営と地域要求に根差した保育事業の展開等が求められています。

今年度も新入園児の保護者向け離乳食講座や健康管理等の講義を取り入れるとともに、丁寧な声掛け等の支援に心がけ、保護者の方々が安心して子育てし働き続けられる環境に努めました。また、保護者との個人懇談を設け、園児の理解と成長に繋げました。

保育内容の充実に向けては、年間カリキュラムに沿った保育の充実に取り組み、運動会やお楽しみ会企画等では子どもが自信をもち、達成感・充実感が持てる保育に努めました。今年も「異世代・異年齢・クラス間交流」に取り組み、高齢者とも触れ合い、異年齢への憧れや優しさが自然と芽生え、心の成長に繋がりました。また、子ども発達センターや保育支援アドバイザー及び田中佳子先生の保育コーディネーター（巡回指導年５回、学習会年２回）の協力を得て、子ども達が安心して自信を持って園生活がおくれるよう支援方法を学び、保育内容の充実と就学支援に努めました。

延長保育や病後児保育は昨年に比べ利用者は減少しましたが、子育てを応援し、更に、保育をサポートしクラスとの連携で、保育の充実に努めました。１月末に乳児クラスで感染性胃腸炎が流行し特に０歳児で半数の子ども達が体調を崩し、複数の職員にも症状がみられたため、家庭保育の協力をいただき、保健所の指導の下、専門業者に依頼して園内の消毒をしました。今回の教訓を職員間で共有し、安全保全の向上と衛生管理の徹底を行いました。

また、奈良市地域子育て支援センターＰｅａｃｅと園庭開放(年８回)や人形劇を共催し、交流することができました。２月には昨年に引き続き保育園ウオッチングに取組み、０歳児さんのいる３家族の方に参加して頂き、子どもとの関わり方や遊びについて、保育園の子ども達と一緒に過ごしながら学んでいただける機会を儲けました。参加された方はとても喜ばれており、これからも保育園に来ていただく機会を増やし、地域の方々への子育て支援を広げていく予定です。

職員のスキルアップや事故防止等安全保全の向上をめざし、新入職員への安全衛生マニュアルの研修を実施、また、描画や発達支援研修等や研修報告の徹底及び各種委員会での学習、研修に努めました。今後も新保育所保育指針を学び、法人やあかね保育園の理念に基づいた保育を根付かせる為に、職員が一丸となり『知を力に！』保育内容や保育環境の充実が求められています。職員の英知を結集し、諸団体と連携し、児童福祉法に沿って子どもの権利が守られるよう、更に運動の輪を広げる活動が求められています。

### （8）奈良市地域子育て支援センターＰｅａｃｅ（地域子育て支援拠点事業）





## 16．公益事業の実施状況

### （1）居宅介護支援事業（ケアプラン作成）

プラン管理総数は前年に比べ月平均７件増加したものの、月７９件の介護管理件数目標に対し７８．３件と年間延べ８件の未到達となり予算を達成していません。

新規依頼が圏域の包括に偏り今後は依頼件数の少ない包括への営業を強化する必要があります。４月報酬改定で重視された医療連携のため文書作成業務が増加した一方、医療機関での認知度は低く連携加算は要件が厳しく取得困難なものもあり、要支援認定の場合は報酬引き当てがないままです。

介護支援専門員受講資格要件変更の前年にあたり例年より多く実務研修生を受け入れました。６月請求ソフト入替により要支援者もシステム対応となりましたが、要介護者も含め変更された帳票作成の手順習得に時間を要しました。

１１月法人内訪問介護事業所の閉鎖に伴い事業者変更のための調整を行いました。1月異動により１名増員、未経者への実務指導とマニュアル整備は今後の課題です。３月には地域事例検討会を共催しました。３割負担導入により利用者負担は重くなり回数の多い生活援助の届出など支援内容は限定される中、在宅生活継続が困難でも施設入所の決断が難しい独居高齢者は増える傾向にあります。悪性腫瘍は末期になるまで又独居世帯も介護度が軽度に認定されることが多く、介護者である家族も高齢化だけではなく就業世代もあり引きこもりなど複合的な課題を抱える方が増え、介護や医療の費用負担ができなければ必要なサービスを受けることはできずインフォーマルな資源も補う程にはありません。

介護保険の消費者意識も高く、家族在宅時や感染症罹患時の支援・徘徊の捜索など介護者のＱＯＬを重視した調整を求められる場面も増えました。事業者との調整不足で制度活用に至らなかった事例や身寄りのない高齢者の終末期支援の意向確認などは検証が必要です。

このように制度改定や利用者・家族の実情や取り巻く環境などへの対応に苦慮することもありましたが、専門性を深めること、連携を強化することなど改めて学び成長する機会になりました。法令を遵守し社会資源を活用しつつ多職種協働の支援態勢構築、地震や台風など自然災害時に事業者の安全確保を確保しつつ緊急時対応など管理面には課題を残しました。

### （2）企業委託型保育事業

昨年度は１２月より０歳児待機児童２名の日勤帯での入所があったため、延べ利用数は４４２名でしたが、２０１８年度は３４６名と９６名の利用減となりました。泊り保育は毎月５回、乳幼児３名の利用があるとともに、日曜・祭日保育では０～１歳児等の利用が多かったため、職員体制を２から３名にするなど保育体制を確保し、安全で安心して過ごせる保育の充実に努めました。しかし日曜・祭日保育では１年を通してキャンセルが多く、当日は予定より少ない人数での保育となることがありました。また、保護者からの要望でゴールデンウィーク期間中の１年生の保育を実施しました。９月は台風による特別保育を１回実施し、乳幼児３名が利用しました。また、業務や保育内容の大幅な改善に努め、異年齢保育で子どもが育つことの大切さについて、実践で深めました。

子育て支援を念頭に看護師等が安心して利用できるよう、毎月１回、子どもの様子をポスターにして掲示、啓蒙しました。毎月、夜間時は延長保育士と連携し、日祝日も避難訓練及び心肺蘇生訓練を実施し、少ない職員体制の中での教訓を見出し、改善してきました。運営に当たっては四者協議会の開催が難しくなっていますが、問題が発生した時には、随時、報告し、改善を行っています。

今後、平和会看護部等連携し、平和会職員の産休・育休状況を掴み、迅速な受け入れ対応の推進と運営の充実を図っていきます。

### （3）高齢者生活共同運営住宅事業

今年度は４月に１名入居され８名でスタートしました。居室の変更に伴う入退去を除き実質的には１２月まで新たな入居者がないままでした。年明けに入退所の動きがありましたが、９名在籍で終えました。１０人目の入居者に関しては３月に契約を締結することができましたが、結果的には予算の達成にはなりませんでした。新たに入居者された方には、あかりの家の支援により安心してあやめの里で暮らされている方もあり法人内サービスとの連携が発揮されました。退去者に関しては、身体状況の変化により、常時見守り等体制のある介護保険入所系サービスへ移行されました。

運営に関しては、やあめ自治会との業務委託契約に基づく家政サービス業務は訪問介護事業の廃止に伴い供給体制の再編を行いました。あやめ自治会との委託契約内容を踏まえ、拠点内での業務請負を基本にした体制づくりと再委託を含む外部サービス導入の検討を行いました。居住施設としての安全および防犯対策の強化目的に必要な設備更新や新規設備の導入を行いました。

## 17．地域における公益的な取組・活動等の状況

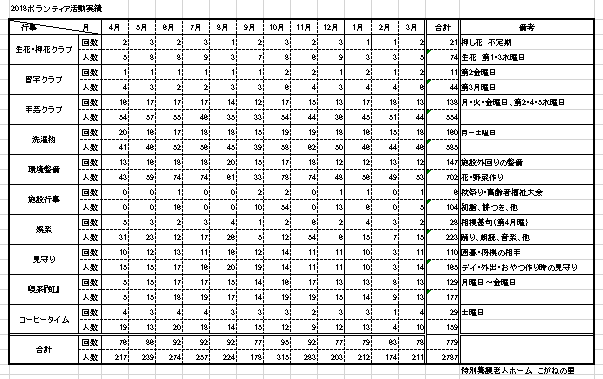
### （1）社会福祉法人減免、低所得者への法人独自減免の実施状況

減免件数は社会福祉法人減免[[1]](#footnote-1)では特養ホーム…延１４６件（前期差＋６１）、ショートステイ…延８６件（前期＋２９件）と特養ホーム・ショートステイ合計で前期の１．６倍超の件数増加となりそれに伴い、社会福祉法人減免額は前期の１．３倍超となりました。件数では前々年度のおよそ３倍超、金額でも２倍近い水準で年々増加の傾向にあります。

法人独自減免[[2]](#footnote-2)は特養ホーム…６０件、こがねデイ…４２件であり、社会福祉法人減免件数と併せた延総件数や３４１件（前年比１２６．３％）でした。同減免総額は全体で３，８０４，６１６円（前年比１２６．０％）となりました。特養ホーム、ショートステイを中心とした入所・利用相談の応需や対象者の入院日数が高い水準で推移したことが反映しています。社会福祉法人減免額のうち１，１３６千円は補助金で補填充当されます。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 1. 社会福祉法人減免 | | ②法人独自減免額 | | ③減免合計 | |
| 2018年度 | 前年 | 2018年度 | 前年 | 2018年度 | 前年 |
| 特養ホーム | 2,691,076円 | 1,710,561円 | 542,840円 | 714,820円 | 3,233,916円 | 2,425,381円 |
| ショート | 503,658円 | 496,920円 | － | － | 503,658円 | 496,920円 |
| こがねデイ | － | － | 64,600円 | 78,540円 | 64,600円 | 78,540円 |
| 訪問介護 | 2,442円 | － | － | － | 2,442円 | － |
| 小規模多機能 | － | － | － | 17,340円 | － | 17,340円 |
| 合 計 | 3,197,176円  (1,136,000) | 2,207,481円  (487,000) | 607,440円 | 810,700円 | 3,804,616円 | 3,018,181円 |

### （2）ボランティア組織の活動状況

２０１８年度の活動回数は９９９回(前年９９２回から＋７回)、延人数は２，７８７人(前年２，６９３人から＋９４人)と活動回数、延べ人数共に増加しています。今年度もボランティアインフォメーションセンター、ボランティア協会へ募集のチラシやボランティア便りを配布し、募集の取り組みをすすめ、昨年度より増加する結果となりました。月例のボランティア会議の中で、ボランティアさんの調整や組織化に向けた取り組みを進め、ボランティア協会への募集紹介、近隣自治会へ募集案内の回覧を継続しました。活動いただいているボランティアさんの紹介、入居者や利用者さんの家族の方とこがねの里を良くする会、伏見包括支援センター、吉田病院等地域からのつながりから新規ボランティアさんの登録にすすみました。ボランティア新春の集いを３／４(月)にあやめ館で開催し、全体で６８名の参加がありました。

### （3）その他活動

| 活動内容 | 日時 | 参加又は件数 | 備考 |
| --- | --- | --- | --- |
| 熱中症予防訪問活動調査 | 7/1～8/31 | ５０件 |  |
| 防災地域の集い | 7/7（土） | ５名 | うち入居者２名 |
| 西大寺北地域自治協議会ふれあい祭 | 10/21（日） | ４名 | 介護相談、車いす体験 |
| 第15回こがねの里秋祭り | 10/27（土） | 約４００名 |  |
| 西大寺北地区防災訓練 | 11/4（日） | ９名 | 車いす体験コーナー |
| 確定申告無料相談会 | 2019/2/6（水） | ２１名 |  |

| 受け入れ実習種別 | 学校・実施機関 | 期間 | 人数 |
| --- | --- | --- | --- |
| 社会福祉士 | 日本福祉大学(通信) | 9月、10月　(24日間) | １名 |
| 社会福祉士 | 佛教大学 | 9月、10月　(24日間) | ２名 |
| 栄養士 | 夕陽丘学園短期大学 | 11月　(5日間) | ２名 |
| 職場体験 | 富雄第三中学 | 11月　(3日間) | ２名 |
| 介護職員初任者研修 | 医療法人岡谷会 | 4/3～5/24（第５回）、7/3～8/23（第６回）、10/3～11/15（第７回） | ８名 |
| 介護福祉士実務者研修講座 | 医療法人岡谷会 | 9/22～2019/3/31 | １７名 |

# 事業報告付属明細書

# Ⅰ．評議員および役員兼職状況（２０１９年４月１日現在）

| 区分 | 氏名 | 主な兼職状況 |
| --- | --- | --- |
| 評議員 | 新　拓治 | 奈良県保育運動連絡協議会 |
| 評議員 | 池田　裕子 | 奈良民主医療機関連合会 |
| 評議員 | 樫内　繁徳 | 吉田病院健康友の会 |
| 評議員 | 金谷　京子 | 金谷電機設備管理事務所 |
| 評議員 | 北村　弥 | 北村皮膚科医院　理事長 |
| 評議員 | 小林　照代 | 奈良県議会議員 |
| 評議員 | 杉澤　千鶴子 | ボランティアすこやか会 |
| 評議員 | 辰浦　泰郎 | ＮＰＯ法人なら福祉介護ネット |
| 評議員 | 西本　守直 |  |
| 評議員 | 原田　満 | 伏見地区民生・児童委員協議会会長  社会福祉法人和楽園理事 |
| 評議員 | 平井　國弘 |  |
| 評議員 | 道盛　薫 | 特定医療法人岡谷会理事 |
| 評議員 | 村田　武子 |  |
| 評議員 | 吉川　好胤 | あやめ池地区民生・児童委員 |
| 評議員 | 渡辺　直樹 | 社会医療法人平和会職員 |
| 理事長 | 山村　弘成 | ＮＰＯなら福祉介護ネット副理事長 |
| 理事 | 淺野　嘉代子 |  |
| 理事 | 栄　孝 |  |
| 理事 | 相馬　智子 |  |
| 理事 | 田中　義夫 | 奈良医療事業協働組合理事長、奈良民主医療機関連合会副会長、奈良自治体問題研究所理事 |
| 理事 | 中里　寛美 |  |
| 理事 | 中西　隆応 | 社会医療法人平和会常務理事  奈良民主医療機関連合会理事 |
| 理事 | 永松　孝志 | 社会医療法人平和会理事長 |
| 常務理事 | 藤井　俊哉 | 社会医療法人平和会理事  奈良民主医療機関連合会理事 |
| 理事 | 藤垣　全弘 |  |
| 理事 | 古木　一夫 | 社会福祉法人こぶしの会理事  ＮＰＯきららの木理事 |
| 理事 | 宮城　恭子 | 特定医療法人岡谷会理事 |
| 理事 | 吉田　恒俊 | 奈良合同法律事務所　所長 |
| 監事 | 城　孝至 | 奈良自治体問題研究所　常務理事 |
| 監事 | 百上　宜明 | 奈良民主医療機関連合会 |

# 事業報告資料

# Ⅰ．事業別予算・実績比較表

※左表：国庫補助金および多額寄附除外

# Ⅱ．２０１８年度利用者動向

## １．利用者動向一覧表



## ２．特別養護老人ホーム、ショートステイ利用者動向

３．通所介護事業（デイサービス）利用者動向

## ４．訪問介護事業（ホームヘルプ）利用者動向



## ５．居宅介護支援事業利用者動向



## ６．小規模多機能型居宅介護、高齢者生活共同運営住宅利用者動向



## ７．介護サービス別収益単価推移



# Ⅳ．機能別委員会活動、研修実施状況

## １．機能別委員会の活動

### （1）こがねの里医療的ケアの安全対策委員会

四半期に１回開催し、特定行為等従事者の研修状況や特定行為等を必要とする入所者の占める割合を確認しました。特定行為等に関する事故やヒヤリハットはありませんでした。

１月には、全職員を対象とした喀痰吸引に関する研修を実施し、２１名(講師含む)が参加しました。嚥下についての学習の後、実際に口腔内吸引を実技しました。また、合わせて重篤な症状がある場合の救急対応について演習を行いました。

県の基本研修に先立って行われた管理者説明会を受け、必要な様式変更を行いました。実務者研修修了者や県の基本研修修了者が複数いるため、実地研修を早期に行う必要があります。次年度より委員会の議事内容について、安全管理委員会に報告し事業所全体としても共有する事を確認しました。

### （2）こがねの里安全管理委員会

月１回を基本に定期開催しました。感染症・事故防止対策を議題とし、外部の関連委員会の内容や事業所内での状況を共有しました。

受診マニュアルに緊急性の区別をつけ、重篤な症状に特化した手順シートを作成しました。他県民医連の安全管理研修に委員を派遣し、緊急時の対応について見直す機会となりました。

服薬事故について、介助時の事故防止を徹底するための対策を検討しました。介助直前の呼名確認の徹底とともに、内服薬と本人の一致が確認できるよう服薬コマに本人写真を、貼付しました。またヒヤリハット報告書について、内容を共有できるよう項目を追加しました。

感染症について、厨房委託業者と情報共有方法を確認しました。今年度も、冬季の感染症が継続的に発生し、家族面会の制限をするとともに、職員の連携について、他フロアへ感染症を持ち込まないよう対応を協議しました。

感染症・事故防止の法定研修を行いました。感染症対策学習会の延出席者数は５１名でした。事故対策学習会については、１回目は外部の普通救命講習に参加し、２回目は事故報告書の記入の仕方について再現映像を用いて学習、事実を正確に記録する事の重要性と難しさを改めて学びました。

### （3）こがねの里身体拘束廃止委員会

身体拘束廃止委員会は、月１回定期開催し計１２回開催しました。個別のケース検討を行い、延２０件の身体拘束の適正化について協議しました。ベッド柵の挙上やベルトの着用等で身体拘束の延数が、年度当初は８件でしたが、年度末には延数が１１件となった。以前の施設で実施していた身体拘束を引き続き実施したケースが多くありました。

身体拘束実施報告書様式を見直し、２月２７日に実施報告書の記録方法について学習会を開催し１７名が参加しました。感染症対策にかかる身体拘束や精神薬管理等の事案において、身体拘束の検討に医療面からの視点は欠かせない事から、２０１９年度より医療職(看護員)の委員会参加を確認しています。

### （4）こがねの里労働安全衛生委員会

　毎月第４木曜日を基本に計１２回開催しました。事業所検診の準備および検診結果概要とフォローの確認を行いました。ストレスチェックについて委託医療機関と事前協議および確認を委員会で検討しました。

　２０１８年９月に「快適職場づくり診断アンケート」を実施し対象者８７名に対し職員５３名から回答を得ました。回答結果概要について委員会で前年度比較や部門・職責・雇用形態別の比較などをまとめ各職場へフィードバックを行いました。

　昨年度に参加派遣できなかった腰痛予防対策として「社会福祉・介護事業の介護従業者向けの腰痛予防講習会」（１１／６）に２名を派遣しました。また、伝達研修として外部研修参加者を講師に２０１９年３月６日に事業場内で腰痛予防研修会を開催し１９名が参加しました。内容は充実していたとの意見がある一方で参加者数が全体の２割にとどまったことから研修効果については課題を残しました。

## ２．２０１８年度研修実施・参加報告（こがねの里）

| 研 修 内　容 | 開催日 | 参加 | 備考・主催など |
| --- | --- | --- | --- |
| 福祉サービスマナー研修 | 5/9　5/15 | ２名 | 県社協 |
| 第１７回奈良民医連看護介護活動研究交流集会 | 5/19 | ８名 | 民医連（奈良） |
| 福祉避難所（民間施設）に関する説明会 | 5/24 | １名 | 奈良市 |
| コーチング研修<人材育成の知識と技術> | 6/9 | １名 |  |
| 第１３回ホームヘルパーのつどいin奈良 | 6/10 | ５名 | ヘルパー連絡会 |
| 第１回認知症介護実践者研修 | 6/28他6日 | １名 | 奈良県 |
| 介護事業所交流集会「介護事故に対応した危機管理研修」 | 7/4 | ４名 | 民医連（兵庫） |
| 普通救命救急講習 | 7/5 | ８名 | 防災センター |
| 介護保険学習会 | 7/7 | ３名 | 民医連（奈良） |
| 奈良市特定給食施設等研修会 | 7/13 | １名 | 奈良市保健所 |
| 〝病院ではない〝施設看護師の専門性と具体的な動き方 | 7/30 | ２名 |  |
| 介護職員実践講座「リスクマネジメントと介護職員の健康管理、チームケア、記録の書き方」 | 8/3 | ２名 | 老施協（奈良） |
| 第１回栄養士研究会 | 8/23 | １名 | 老施協（奈良） |
| 排泄ケアセミナー　ＩＮ　奈良＆和歌山 | 9/5 | １名 |  |
| 施設における看取り教育について | 9/7 | １名 | 老施協（奈良） |
| 第2回認知症介護実践者研修 | 9/13他6日 | ２名 | 奈良県 |
| 奈良県内における高齢者施設　在宅における看取り | 9/15 | １名 | 看護協会（奈良県） |
| 第1回感染症対策学習会「嘔吐症状がある感染症、前年度インフルエンザ報告」 | 9/26 | ２９名 | 内部研修 |
| 介護職員実践講座「高齢者の病気の理解、高齢者のからだと機能訓練」 | 10/5 | ２名 | 老施協（奈良） |
| 対人援助技術研修 | 10/15　12/3 | １名 | 県社協 |
| 「事務職員としての知っておきたい基礎知識」  ～働くことの法律・ハラスメント対策なども含めて～ | 10/16 | １名 | 老施協（奈良） |
| 第31回奈良県老人福祉施設職員研究会議 | 11/5 | １名 | 老施協（奈良） |
| ２０１８年度介護・福祉責任者会議 | 11/8～11/9 | ２名 | 民医連（全日本） |
| 「徘徊」から「安全なひとり歩き」のまちへ  ～奈良市認知症見守り声かけ模擬訓練～ | 11/8 | １名 |  |
| 介護ウェーブ２０１８　学習・交流会 | 11/10 | ５名 | 民医連（奈良） |
| 第２回栄養士研究会 | 11/15 | １名 | 老施協（奈良） |
| 奈良県喀痰吸引等研修(第一号・第二号研修)「管理者向け説明会」 | 11/15 | １名 | 奈良県 |
| 介護職員実践講座「認知症ケア、口腔ケア」 | 11/16 | ２名 | 老施協（奈良） |
| 「在宅・施設における感染管理とフィジカルアセスメント」研修会 | 11/17 | １名 |  |
| 第１８回職員研究交流会in熊本 | 11/24～11/26 | ３名 | ２１・老福連 |
| 奈良県喀痰吸引等研修(第一号・第二号研修) | 11/26他8日 | ２名 | 奈良県 |
| 腰痛予防学習会 | 12/6 | ２名 | 中央労働災害防止協会 |
| 世界アルツハイマーデー記念・認知症サポーター養成講座「認知症フォーラム２０１８奈良」 | 12/1 | ２名 |  |
| 地域・こども・笑顔フォーラム～こども食堂ってどんな食堂？～ | 12/1 | １名 |  |
| 奈良県高齢者虐待防止研修会 | 12/3 | １名 |  |

## ３．あかね保育園健康安全委員会

月1回の定例会議及び避難・防災・心肺蘇生訓練を担当制で運営し、年齢別事故リスク軽減のためのチェックリスト(毎月)や感染予防・施設点検(４期)を実施する中、安心安全の保育環境及び施設整備の改善と充実に繋がりました。事故件数は昨年２４件に対し今年は２６件と２件増加しました。特に、肘内障や転倒等の事故が多かったです。取り組む前の危機管理を念頭に置き、遊びや作業の時のルール化や危険を予知し、環境を整備することの重要性が確認されました。また、肘内障は手を引っ張ることはもちろん、子ども同士のじゃれあい遊び、衣服の着脱でも起こるので注意しています。前半期は離乳食の間違い等に気を付けていますが、今回は１２月にミスがあり、保育士の見守りや子どもの座席等の反省もあるが慣れてきた頃に再度気を付けることを共通認識しました。『配膳する・指さし・声だし確認』を必ず実施する事の大切さも確認されました。今後ミスを起こさないために誰かがどこかでミスに気付ける体制づくりも実施していきます。

ヒヤリハットは昨年１０８件に対し９８件の報告があり、事故及びヒヤリハット等を集団分析し、その結果を全職員に啓蒙することで事故防止に繋がりました。毎年だが打撲・転倒が多く、事前に危険予知をもち環境整備をすることが重要である事を踏まえ、健康安全委員会時間内でそれぞれのお部屋の点検等を実施し、皆で安全な環境づくりを推進しました。

未確認による内服管理ミスについては内服管理マニュアルを作成し職員間の確認を行いました。職員間で衛生管理マニュアルを確認し、実践の徹底を図りました。また、『防災マニュアル』に基づき、計画的備蓄及び保護者参加の避難訓練を実施しました。保護者へ衛生管理に対する園の方針や健康情報などを啓蒙すると共に、園児には健康教室で手洗い、プール使用時の注意、体の仕組みなどを行い、健康安全の推進に努めました。

## ４．あかね保育園給食会議

定例会議ではその都度の課題でミニ学習を行い、‘楽しく食べる’を基調に、摂食機能の発達と援助に沿って、離乳食や給食を促進してきました。特に、食課題がある児及び０歳児口腔内チェックリストを作成し集団支援を深めました。

『給食の７つの大切』を基調に、園児の喫食状況を出し合い献立内容等を改善しました。また、食育計画に基づき行事食を実施、園児が自ら野菜の皮むきや栽培で収穫した野菜をクッキングする等で食に対する意欲を引き出しました。また、園全体では鮭の解体ショーとチャンチャン焼きを実施し命の大切さを学び『食育』の前進に努めました。

５歳児は『稲の栽培』に取組み、命の大事さ等、多くのことを学びました。また、アレルギー児の増加により、除去食用食器で誤食を防ぐと共に、医師の指示書に基づくアレルギー除去食の徹底に努めました。

毎月の給食室会議では、献立を全員で確認・検討し、給食の質の充実や業務改善に繋がりました。更に、保護者役員の方々には試食会を５回開催し、保護者の方々とともに給食を通して、子育て懇談ができ、親の思いや悩み事などを共有しました。更に、保護者と共に、食育の充実に取り組むことが求められています。

## ５．社会保障を充実させる取り組み（社保委員会活動）

社会保障や福祉の充実、憲法を守り平和を求める運動を中心に情勢学習を行い、憲法を破壊し社会保障を後退させる法案に反対し充実や改善の取り組みをすすめました。街頭での署名宣伝行動に取り組み、学習会や集会にも参加しました。７月８月にかけて熱中症予防調査（５０件）に取り組みました。特に憲法９条を守り改憲に反対する署名運動、集会や学習会の参加に取り組み、憲法９条では学習ＤＶＤと憲法リーフレットの視聴と読了の取り組みをすすめました（視聴９２名、読了１８名）。

# Ⅵ．協力組織との関係強化および共同組織方針づくり

## １．こがねの里入居者・家族の会との連携

毎月第１土曜の定例開催を基本として、施設長、副施設長が出席しました。定例で開催される家族の会世話人会では毎月の施設の運営状況や予定などを報告し情報共有に努めました。また地域社会や社会保障制度の動向などについて、時折意見交換も行い相互理解を深める機会となっています。第１７回こがねの里入居者・家族の会総会（５／１５）学習会では「介護予防・認知症予防講座学習会」が開催され１８家族２１名のご家族に加え、職員も一緒に予防講座を受講しました。

「（昨年度に寄贈頂いた）桜の木を気軽に鑑賞でき、また安全に外気浴ができるように」と家族の会とよくする会協同で新館３階北側に遊歩道整備募金募集が呼びかけられました。短期間で目標金額を達成し施設整備寄附金として受領しました。多くの方々から寄せられたご意思を実現すべく２０１９年度早期に整備計画の具体化を進める予定です。

## ２．あかね保育園保護者会

保護者会は新体制の下、役員会議の定例化や役割分担化及び「あかねっこだより」を発行し、会の活動内容等を会員に啓蒙し喜ばれています。また、保護者会と運営会議で数回行事・企画等について懇談を持ち、９月には『お掃除フェスタ★２０１８』と題してのお掃除企画があり７０名の参加で、手作りハタキ教室や音楽に合わせてエクササイズをしながら雑巾がけをするなど、楽しく掃除をし、人形劇やクイズで地球温暖化についても楽しく学ばれました。１月には保護者会主催で「あかねっこカフェ」を実施し、２３家庭の参加で、会員や園との交流を深めました。

園の行事である秋篠こども祭りや運動会の準備等にもお手伝いして頂くとともに、署名にも協力して頂きました。奈良市保護者会協議会に積極的に結集し、保育条件の向上に努めました。また、卒園されたママを中心に「クラフトの会」を年１回実施し、子育て仲間の交流になっています。

## ３．特別養護老人ホームこがねの里を良くする会

２０１８年６月２３日(土)に第６回総会が開催されました。こがねの里入居者・家族会の桜の木の植樹事業を契機に、植樹場所の通路を砂利施工から車いすなども往来しやすいブロック施工工事に関する募金活動を家族会と共同ですすめる事を確認するとともに会員の方の役員会への参　加促進などニュース発行などを通じて案内をすすめていく事を確認しました。

第二部の学習会では、「私の終活」と題して田中・眞継法律事務所の田中幹夫弁護士にご講演いただきました。主に奈良公園の環境を守る会弁護団長、サングループ事件国家賠償請求訴訟弁護団長、奈良市顧問弁護士も担当されています。講演では、「８０歳を迎えるにあたり、ハムレットではなくドン・キホーテになって悪い奴をやっつけようと思う。」「怒りの声を挙げなければ、自分の存在を否定したことになる。」など戦い続けることが私の終末活動と強調され、人権訴訟、社会保障・福祉訴訟に関する活動の経過について２３名の参加者一同で学習を深めました。

役員会は４回開催し施設の運営状況や介護保険をはじめとした情勢及び地域の高齢者を取り巻く状況について共有を深め、運営協力の取り組みについて検討しました。また、役員会開催ごとにニュースを発行し各会員の方へ情報発信を行いました。こがねの里秋祭りでは会から３名が参加、産直野菜販売を担当頂きました。

## ４．あかね保育園運営協議会

今年度も開催予定しましたが行事が重なるなど、開催日時の調整が難しく開催することができませんでした。昨年度も１回のみの開催となっており、運営協議会の開催が年々厳しくなってきています。委員の方々に協力をいただき、今後の運営協力会について検討していきたいと思います。

## ５．高齢者生活共同運営住宅建設運営協力会

介護予防サイクルハウス・あこだとあやめの里の運営に関する協力事業に、幹事会への参加、総会準備、通信の発行、行事の参加を通して建設協力会と連携して取り組みました。

６月１６日に 第１１回総会がこがねの里地域交流室で開催されました。総会の第二部の学習会では、税理士法人奈良税経センター代表税理士・公認会計士　池田　歩氏を講師に迎え「相続税とその対策」のテーマで講演、相続税対策について学び共有しました。第三部では総会出席者一同で食事会を開催し会員の親睦と学習会の内容について深めました。

４回の幹事会を通し、あやめの里とサイクルハウス・あこだの運営状況の共有と広報誌「あやめの里あこだ通信」を３回発行し会員への情報発信に取り組みました。

あやめの里とサイクルハウス・あこだの実践や、社会保障制度充実の取り組み等の情報発信を定期通信の発行で継続することを確認しました。

1. 社会福祉法人等による生計困難者に対する利用者負担の減免措置（利用料…25%分、食費…25%、生保受給者居住費…全額） [↑](#footnote-ref-1)
2. 法人独自減免（生活保護受給者の方　食費…50%、宿泊費…1,500円を減額、居住費…820円を減額、低所得者の方　入院期間中の特養ホーム居住費を本人の負担上限額に減額） [↑](#footnote-ref-2)